

シリーズ「放課後子ども教室推進事業」

【第71回】初中教育ニュース（初等中等教育局メールマガジン）掲載 マナビー・メールマガジン掲載

「生きる力」を育てるこどもクラブに

尼崎市浜こどもクラブ 責任者 小林功

尼崎市においてこどもクラブが発足して十年が経過する。平成17年度からは、全小学校（現在43校）に設置され、日曜・祝日と年末年始の6日間を除く通年の放課後および学校休業日に延べ20数万人に上る児童が来室する。

学校週5日制の実施以降、子どもたちが安全・安心な環境の下で遊びや子ども同士の交流などで健全に過ごすことのできる「居場所」を提供するためであり、このため安全で快適な環境づくりと家族・学校・関係機関等との連帯に努めてきたところである。

子どもたちは放課後來室すると、自主的に宿題に取り組み、友だちとさまざまなゲームに興じ、手づくり作品の制作に没頭している。屋外では、ボール遊び、おにごっこ、一輪車等に熱中している姿も見られる。また、季節に応じた企画を地域の諸団体（P・T・A、母親クラブ、子ども会、老人会等）と共催したり、ボランティア団体と定期的に交流したりなど、活動内容は年々充実している。

子どもたちは遊びや異年齢交流を通して、日々成長しているが、時には子ども同士の摩擦や友だちの輪の中に入っていけない子どもの姿が見られることがある。普段3名いる指導員の指導力や資質が問われるところである。

このため数年前から指導員の交流を活発にするとともに6つの地区で責任者が中心となり、年間3回以上の研修を実施している。

ていねいにねばり強く子どもの訴えや問いかけを聞き、元気のない子どもに声をかけ、子どもたちの成長を促していく所存である。

続けて来ていた子どもが来なくなることがある。その中に、友だちができ放課後はその友だちと過ごすようになる例がある。私たちは、このような例を「こどもクラブからの自立」と呼んでいる。これこそ本来私たちが願っていた姿かもしれない。今後共「生きる力」を育てるこどもクラブを目指していきたい。

（初中教育ニュース（初等中等教育局メールマガジン）第218号に掲載）

（マナビー・メールマガジン第45号に掲載）